

杉田 彩実 (静岡)

三興商事株式会社



いつも心にありがとう

これは弊社の経営理念です。感謝の気持ちは相手にも自分自身にもとても大きな原動力となります。私達は社員一人ひとりの人生を充実させるために技術力、提案力を磨きあい精進してまいりました。

建築業界も技術の進歩、デジタル化など発展の一途をたどる中、弊社も創業52年、お客様に寄り添いながらサービスの向上に努めてまいりました。私達の仕事は建物を建築するお客様の希望、想いをどれだけ理想に沿った形にするか、そのために最適な建築資材をご提案し工事管理にわたるまでお手伝いさせていただきます。

建築は自分の頭で思い描いた夢を形

にする最も有意義な方法だと思っています。近年コロナ渦での建築に対するコストパフォーマンスも見直され自由な発想も制限がかかる世の中になってきました。

ただそんな世の中だからこそ夢を形にし、希望を人々の目に映していく事が重要だと考えます。夢を形にしたお客様の喜ぶ顔と、今後その建築物を利用する人々の笑顔のために私達は様々なご要望にも果敢に挑戦していきます。

この建物にはどんな建材が合うだろう、、、イメージや大まかなビジョンでも構いません。きっと道標のお手伝いができると思います。

お気軽にお問合せご相談ください。どうぞ今後とも宜しくお願い致します。



オンライン会議による工事管理報告



施工写真による報告

建築確認検査、住宅性能評価、住宅瑕疵保険、
構造計算適合性判定、省エネ適合性判定のほか
インスペクション業務なども行っています。



一般財団法人 愛知県建築住宅センター



CONTENTS

法人協会の通信 53

三興商事株式会社 表紙裏
杉田 彩実

地域会だより 1

連載：マクロとミクロの視点から組み立てた
景観計画群のマネジメントの実践
—日本建築学会賞受賞業績記 第4回— 2
浅野 聡

第1回 JIA 塾 公共建築設計の発注方式
小野田泰明教授講演会 4
鳥居 久保・吉元 学

JIA 建築ワークショップ@豊橋
「お店をつくらう！～小さなまちづくりプロジェクト～」 6
黒野 有一郎

自作自演 私の仕事 04 7
社会と環境をつなぐ設計
杉本 憲治

JIA に入会して 7
大島 幸二・早川 紀朱・森 弘毅・鈴庄 禮子・片山 貴之

保存情報 第239回
データ発掘：白鳥庭園 8
山上 薫

編集後記 8
谷川 ヒロシ・森 哲哉

JIA ゴールデンキューブ賞 2019 / 2020 作品集—9
鈴木 賢一

イベント

「くつろぎハウスをつくらう！」

JIA 愛知地域会（事業委員会）と愛知県図書館（愛知県）との共催ワークショップ。これまで、小学校などで行ってきた「一寸格子」による建築ワークショップを行います。当日のみのワークショップです。会員の皆さまへ参加募集をしています。

■開催：2021年11月27日（土）13:00～16:00

■場所：愛知県図書館・大会議室

■参加方法：11月19日（金）〆切

希望者は支部メール shibu@jia-tokai.org までご連絡ください。
「愛知事業委ワークショップ参加希望」としてメールください。

表紙 「額装の家」のコンセプトスケッチ

いつから自分は建築家となったのだろうか。職業としては独立して初めて仕事を始めた時かもしれないが、実際には各々の仕事で、ある示唆（課題）が与えられ、右往左往の積み重ねが今の自分を形作ってきた。

「額装の家」は、築60年の一軒家の改装。日々の生活こそを大切にしたい施主の思いと、古くさやかな家の愛らしさを「額装」することで繋いだ。予件と施主の思い、性能確保の設えを統合するコンセプトを見いだせたという点で、この仕事が私を建築家してくれたのだと振り返る。



塩田 有紀 (JIA愛知)
塩田有紀建築設計事務所

地域会だより 今後の予定

■静岡地域会
・11/11 静岡地域会役員会の開催（WEB 同時開催）
・12/9 第73回静岡県建築文化研究会講演会
「これからの地域の建築家の役割～5つの質問に答える」
講師：内藤 廣

■愛知地域会
・11/ 毎週金曜日 JIA 大学授業「建築家の仕事」（名古屋市立大学）
・11/19 第6回役員会（WEB 併用）
・11/26 講演会『電腦設計論壇 #10』（オンライン方式）
・11/27 愛知県図書館 × JIA 愛知 建築ワークショップ

■岐阜地域会
・11/27 18:00～ハートフルスクエア G2F 大研修室にて
JIA の窓「ぎふ「20×20」コミュニケーション」
ペチャクチャナイト企画

■三重地域会
・11/20 建築ウォッチング
多気町丹生大師 神宮寺周辺散策
・11/24 三重短大 設計授業協力

Bulletin Board

講座案内

名古屋市立大学授業「建築家の仕事」
JIA 愛知・大学特別委員会主催の
名古屋市立大学 芸術工学部 2021 年度後期授業

「建築家の仕事」が今年も毎週金曜日開催します。JIA 会員も聴講出来るようご配慮頂きました。それぞれの会員が日々取り組んでいる仕事や、学生への未来に向けてのエールなど、普段、会の活動だけでは見えない会員の仕事や取り組みを紹介しています。

■11月5日 **もの／ひと／こと／まち育てー私の設計手法ー** 高木 耕一
ユーザー参加型のものづくりをプロボから竣工後までのプロセスを交えながら振り返る。

■11月12日 **どうして建築家になろうと思ったのか。** 中川 竜夫
ウィルスによっているんなことが制限されている今、次に踏み出すヒントとなれば。

■11月19日 **都市・地域整備の過去・現在・未来** 尾関 利勝
仕事の自覚は、まちの町医者 まちづくり（都市・地域整備）の沿革・概要。

■11月26日 **構造設計事務所の活動** 金山 美登利 林 希代子
意匠、構造、施工者とのコラボレーション、法律の遷り変りと木造建築物。

■各回金曜日 10:40 から 12:10

■聴講方法 聴講希望者は、各回ごとに鈴木賢一先生へご一願願います。

ken@sda.nagoya-cu.ac.jp まで

※状況によりオンライン授業に変わる場合もあります。

講演会

電腦設計論壇 #10

総合研究大学院大学にてコンピュータ史を研究している前山和喜（まえやま・かずき）氏をお招きし、日本の建設業におけるコンピュータの受容について講演して頂きます。

■日時：2021年11月26日（金）18:30～20:30

■受講登録ページ（QRコードからもアクセスできます）

https://zoom.us/webinar/register/WN_KXnmd4SvTQWE96T7KQZlwA

■参加費：無料（CPD単位取得希望者は受講料1,000円／CPD2単位：希望される方は上記URLにアクセスし、指示に従って講演の2日前（11/24）までに受講料をお振り込みください。期日までに振り込みが確認できない場合は単位は取得できませんのでご注意ください。）



イベント

JIA 東海支部後援 CPD 単位申請中
世界劇場会議名古屋 フォーラム 2021 「公共劇場のゆくえ」

■日時：2021年12月10日（金）14:00～17:30

詳しくは <http://www.itc-nagoya.com>



WEB から参加申込

マクロとミクロの視点から組み立てた 景観計画群のマネージメントの実践

— 日本建築学会賞受賞業績記 第4回 —



1. はじめに

本稿では、第3回で紹介した亀山市の景観まちづくりプロジェクトに続いて、他の歴史都市で実践したプロジェクト群を取り上げるとともに、「伊勢志摩国立公園圏域」における自然景観を対象にした眺望景観プロジェクトについて述べてみたい。

2. 歴史街道文化圏域における

景観まちづくりプロジェクト

筆者が「歴史街道文化圏域」において景観まちづくりに関わり、具体的な成果をあげることができた対象地域をまとめると図1の通りである。2005年度から2018年度にかけて三重県と各市に対して景観調査と計画立案のための23の共同研究を提案し、27地区において実施することができた。調査対象とした建築物は計10,422棟、工作物は計2,054件であり、町並みの種別は城下町(武家地・町人地・寺社地)、鳥居前町、寺内町、宿場町、農村集落と多岐にわたり、県内を代表する歴史的町並みは概ね網羅することができたと思われる。

3. プロジェクトの実施状況

三重県内で景観まちづくりプロジェクトを実施した伊賀市、津市、松阪市、伊勢市における取り組みについて、以下、簡潔に紹介したい。

伊賀市では、伊賀上野城下町の景観紛争が発生し、このことが契機となって取り組むこととなった。城下町内で地上14階建(高さ43m)の高層マンションの建設が発表され、これに驚いた地域住民が反対運動を起こして景観紛争となったのである。地域住民が民事訴訟をおこし、最終的には住民側の主張が認められて事業者は高さ20m以下とする和解を受け

入れた。この後に伊賀市は県内の市町として第1号の景観行政団体となり、景観計画の策定に取り組むこととなった。伊賀市の取り組みの特徴は、城下町全体をカバーするように広範囲にわたり重点地区の指定を実現できたことである。

津市では、一身田寺内町地区を舞台にして、景観調査から地区指定の実現に至るまで数十年以上にわたり辛抱強く取り組むこととなった。津城下町は、残念ながら太平洋戦争の戦災で市街地が焼失してしまったが、戦災にあわなかった一身田寺内町は市内で現存する重要な町並みとなっていた。筆者は十数年前から景観保全を提案してきたが、一定の規制が伴うため地元合意に至らない状況が続いていた。しかしながら、近年、津市が公共事業として景観整備に着手し、主要街路や水路等の景観改善が目に見える形で実現したことを契機にして地元合意が得

られ、津市景観計画を策定して重点地区の指定を実現できたのである。

松阪市では、伊賀市と同様に松阪城下町の景観紛争が契機となって取り組むこととなった。松坂城に隣接する四五百(よいほ)の森に、地上7階建(高さ26m)の高層マンションの建設が発表され、自治会を中心にして反対運動が生じた。関係者間で協議を重ねた結果、事業者が譲歩して6階建に変更することができた。自治会は、次の景観紛争を予防するために市と協議をして高さ12m(一部10m)を基本とした地区計画を検討し、事業者も同意して地区計画が実現した。この後に松阪市は景観行政団体になり、景観計画を策定して城下町における2つの重点地区と伊勢街道沿いの農村集落における1つの重点地区の指定を実現できたのである。松坂城下町は、江戸で活躍する伊勢商人(松坂商人)の故郷であり、

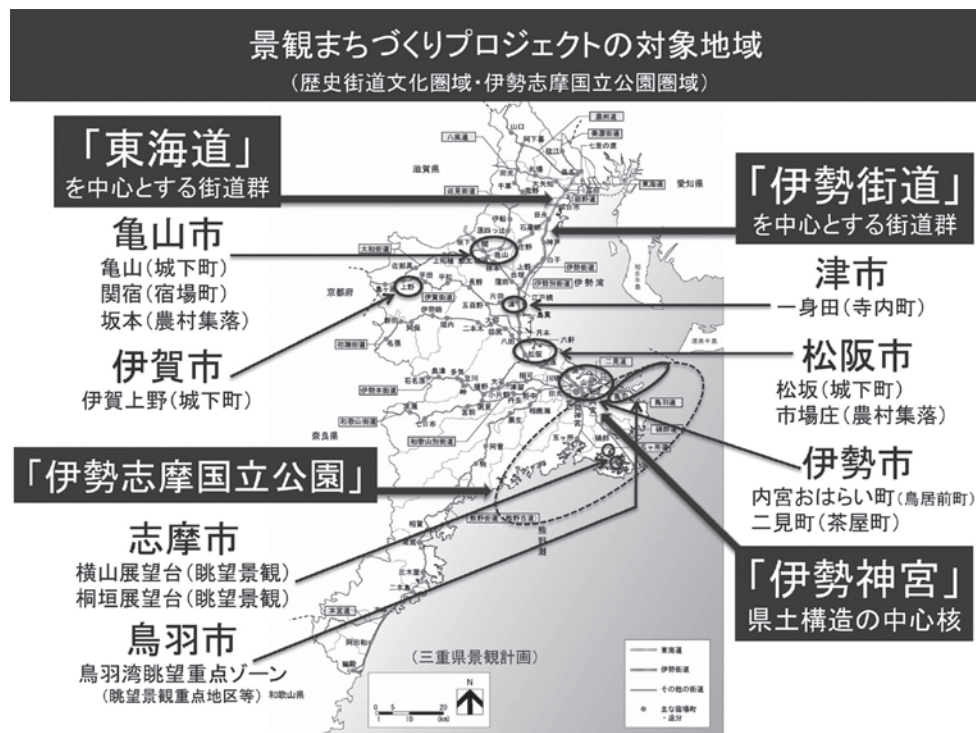


図1 景観まちづくりプロジェクトの対象地域(歴史街道文化圏域・伊勢志摩国立公園圏域)

歴史的景観の保全を実現できたことは意義深かった。

伊勢市では、市町村合併前に指定されていた2つの重点地区を見直しバージョンアップに取り組むこととなった。内宮おはらい町地区は伊勢神宮の鳥居前町であり、地域住民と行政の協働によって歴史的景観を再生し観光地として活性化した事例で有名である。ここでは、戦前から指定されていた美観地区と高度地区を見直し、景観法の施行に伴い美観地区を廃止して新たに景観地区を指定するとともに高度地区の高さを10mで統一する等のバージョンアップを実現できた。二見町茶屋地区は、国や三重県の名勝に指定されている二見浦や夫婦岩に隣接する旅館街等である。旧二見町時代に景観条例によって重点地区に指定され木造旅館を対象にした景観形成基準が定められていたが、土産物店である町屋も存在していることから、5地区にゾーニングし直すとともに地区ごとに景観形成基準を制定して、無事に旧計画の問題点を改善することが実現できたのである。

4. 伊勢志摩国立公園圏域における眺望景観保全の取り組み

歴史的景観を対象とする調査の場合は、建築物群から成る歴史的市街地の範囲を特定しやすく、その大きさはヒューマン

スケールである。一方、自然景観の場合は、対象となる山、海、川、土地等が広域にわたって存在することが多いため、如何にして重要な範囲を絞り込むかがポイントとなる。伊勢志摩国立公園圏域では、範囲を絞り込むために眺望景観の考え方を使用することとなった。

眺望景観を保全するためには、①視対象（意識的に眺めることのできる眺望景観を構成している対象。自然物の場合はランドマーク型・パノラマ型・両者の混合型に大別できる。）、②視点場（対象とする眺望景観を眺めることのできる特定の場所）を特定することがまず必要となる。そして次には、③眺望景観保全地区（眺望景観保全を目的として設定する地区。近景：視点場から500m未満、中景：視点場から500m以上～3,300m未満、遠景：視点場から3,300m以上に大別できる。）、④眺望景観保全基準（眺望景観保全地区内の建築物・工作物等の高さ、規模、色彩等に関する基準）を検討し、具体的な内容を決めていくこととなる。

5. プロジェクトの実施状況

伊勢志摩国立公園圏域におけるプロジェクトは、三重県からの依頼を受けて実施したものである。当時（2009～2010年度）は、同国立公園内で景観行政団体になっていたのは三重県と伊勢市

のみであったことから、三重県と三重大学で眺望景観調査を先導して行い、鳥羽市、志摩市、南伊勢町に景観行政団体になって頂くように働きかけるとともに、将来、景観計画を策定する際に活用できる資料を作成することを目的として、眺望景観保全制度の仕組みと運用に関する提案をとりまとめることとなった。

数年後に志摩市が景観計画を策定することとなり、私たちの提案の中から横山展望台と桐垣展望台を視点場とする2つの眺望景観保全地区が選ばれて決定された。その後、横山展望台は、環境省の国立公園満喫プロジェクトの一貫として再整備され、「横山天空カフェテラス」として生まれ変わり人気スポットになっている。JIAの会員の皆様もぜひ訪れて満喫して頂ければ幸いである。

2020年には鳥羽市も景観行政団体となり景観計画を策定したが、この中にはさらに眺望景観が重視されることとなり、私たちの提案を踏まえて2つの眺望景観重点地区が決定されるとともに、新たに鳥羽湾全体と離島の漁港に対する眺望景観も制度化されることとなった。

6. おわりに

本稿で紹介した全ての事例には、筆者は現在も景観アドバイザーや景観審議会メンバーとして関わっており、今後も責任を持ってマネジメントしていきたいと思っている。とはいえ、空き家の増加といった新しい問題が次々と生じており悩みの種は尽きない。来訪者のための満喫プロジェクトを考える一方で、自分が満喫する時間はいつになるやらである。しかしながら、この夏の東京オリンピックとパラリンピックに出場した各国代表選手の活躍ぶりを観戦して、改めて景観まちづくりに立ち向かうための勇気を頂くことができた。次号では、3つの圏域の中から「世界遺産圏域」を取り上げ、実践したプロジェクトについて紹介してみたい。

浅野 聡

三重大学教授



伊勢志摩国立公園圏域 眺望景観調査



横山展望台(志摩市)からみたパノラマ型眺望景観



横山展望台眺望景観保全地区の決定(志摩市景観計画)

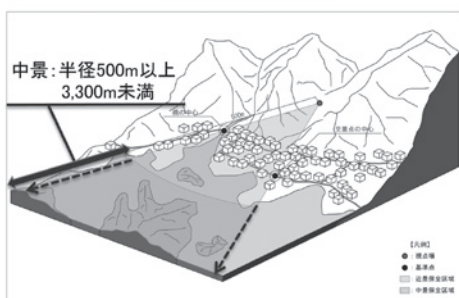
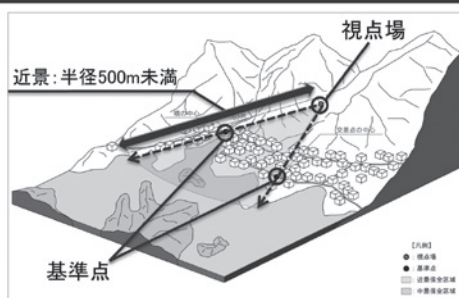


図2 伊勢志摩国立公園圏域における眺望景観調査

第1回 JIA 塾 公共建築設計の発注方式 小野田泰明教授講演会

現在のプロポーザル事情と設計者選定について



講師：小野田 泰明 氏

2021年8月17日、JIA 静岡地域会の今年度第1回目のJIA塾として、東北大学大学院教授の小野田泰明氏を招いて、主に官公庁発注における入札によらない設計者選定の方法論と実際を、「現在プロポーザル事情」と題して講演を頂き、同時にZoom配信を行った。

なぜ今設計者選定をテーマにしたかと言えば、従来の発注者（施主）とそれを受注した設計者の二者の関係性だけで建築を生産してきた時代とは今は状況が違い、建築への要求事項の多さや建築に関わる関係者の多様さが、建築を生み出す条件（環境）を複雑にしている現状があるからだ。

設計前業務

一般的に設計を依頼された時、設計者はいきなり設計に取り掛かるわけではなく、最初は施主が抱く建築の構想を注意深くヒヤリングして、その構想の実現のためのプログラムを作成することになる。これは施主の言葉を建築に変換するための最も重要なプロセスであり、その時作られたプログラムの良し悪しが後々の成果品としての建築の価値を決定する。もちろんこれ以外にも面積配分（面積表）やコスト、工期など計画の事業フレームもこの時に作られることになるが、基本設計に入る前のこの段階を、設計前業務と呼んで、狭義の設計行為とは、切り離して考える。

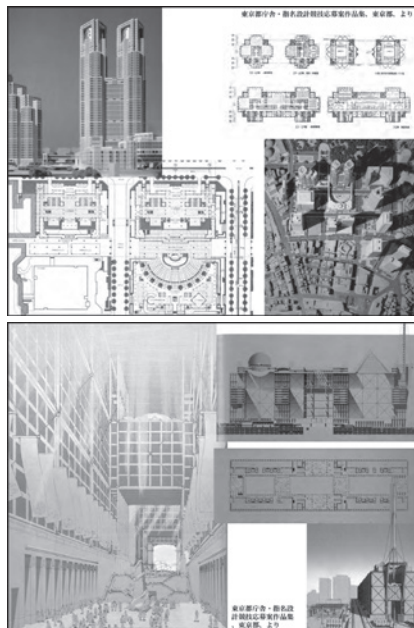
簡単に言えばこの事業フレームを作る段階を、小野田教授は「プレデザイン」として位置付け、発注者と設計者（建築家）との間に立つ人間を「建築計画者」と言っており、その役割の重要性を説く。小野田教授はプレデザインと建築計画者の新たな職能の現代における意味を、プロポーザルの過去の経緯を踏まえながら説明をされた。

プロポーザルの4つのフェーズ

まず小野田教授は、入札からの脱却を目指した建築設計界と旧建設省、国交省

の取り組みを振り返り、その経緯を4つの期（フェーズ）に分けて整理した。

まずは1985年～1994年の10年を小野田教授はプロポーザルの第I期黎明期と呼び、1985年に建築4団体が「入札によらない建築設計者の選び方」を共同で提唱したその年を、起点とする。これを受けて旧建設省は1991年、建設審議会の答申で入札に代わる選定方式として①設計競技（コンペ）、②プロポーザル、③書類審査の3つを挙げた。特に、②のプロポーザルはコンペほど負担を強いまいという理由で、入札の対案ではあったが、図面としての具体案を求めない中で、選定に至る運用の難しさには改善が必要とされた。この時期の設計競技としては、超高層案対低層案（丹下対磯崎）で物議をかもした1985年の東京都庁のコンペがあった。



次に1994年～2000年を小野田教授は、第II期のプロポーザル導入期と位置付ける。これは1994年の内閣府による「公共事業の入札・契約手続の改善に関する行動計画」にある、基準額以上の調達については市場開放のためにも、公募型プロポーザル方式又は公募型設計競争方式で調達を行う事を入札に代わる改善措置として提言する。建設省も発注方式は入札によら

ずにプロポーザル方式での設計者選定を推奨し、それに伴い自治体レベルでもプロポーザル方式の採用へと動く。しかし一方でプロポーザルゆえの選考理由の不透明性や、考え方だけで果たして審査ができるのかという疑問があり、改善策として審査過程を公開する公聴方式が採られるようになった。この時期の設計競技としての代表例は、1995年のせんだいメディアテークがある。この「せんだい」がオープンコンペになったのは、官と民の癒着構造を払拭するものであり、そこで一転「指名」を「公募」という形で公正を図りコンペとなった。

「せんだいメディアテーク」のプレデザイン

その時のプログラム作りに白羽の矢が立ったのが、当時東北大学の研究室に在籍していた小野田教授（もちろんこの時は教授ではなく若き研究者だったが）であった。まさにこのタイミングで「せんだい」のプレデザインを任されたのであり、建築計画者としての立場を与えられたのだ。

まず小野田教授が手掛けたのは、仙台市から提出された4つの既存の公共施設（図書館、ギャラリー、メディアセンター、情報提供施設）の合築構想を再構成、再編成することだった。この再構成、再編成こそがプレデザインの本質であり、良い建築を生むか生まないかはこのプロセスにかかっている。そこで小野田教授は「公共4施設の合築」というプログラムを「アートとメディアが相互に循環する新しい建築型」へと変換した。このプログラムの書き換えは、1985年の東京都庁コンペにおいて「2棟の超高層案」がほぼ既成事実化する中、それらをぶち壊した磯崎氏の低層案提示が伏線になっていることは察しが付く。つまり小野田教授は都庁での磯崎氏の低層案に大きな衝撃を受け、建築の可能性を生かすも殺すもコンペやプロポーザルの要項書の書き方如何だ、という強い確信を持った。

それから10年後、自らが「せんだい」

のプロポーザルのプレデザインを任せられたとき、小野田教授は強力な中心性をこのプロポーザル全体に与えるために審査委員長に都庁コンペで一大センセーションを巻き起こした磯崎氏を指名したのだ。

このようにプレデザインでは発注者に代わって、建築のプログラムを作り、要項書を作成し、審査員の構成を決めて、プロポーザルそのものを構築する。そのためには、求められる機能や社会性のもとに将来を洞察する力と、空間の実際の使われ方をプログラムにフィードバックするための正確な調査や評価、さらにそれに建築家としてのセンスが必要とされる。

こうして、設計の伊東豊雄と、それを選んだ磯崎新と、全体のシナリオを描いた小野田泰明教授という最強の布陣が、あのせんだいメディアテークを生んだ。

2000年～2010年の第Ⅲ期ではプロポーザルの充実期として、市民参加というフェーズが加わる。これは例えば、2005年の立川モデルのように設計者選定に市民参加を求めたり、公共施設の計画を市民と協働して行う事で、透明性の高い設計者選定が可能になったが、同時にそのためにかかるコストをいかに担保し手当するかが課題となった。手法としては、ワークショップが多くのケースで採用されるようになった。

2010年以降の第Ⅳ期はプロポーザル

が多様化した時期として位置づけられる。ここでは建設業界的には東日本大震災の影響による建設コストの高騰という状況が生まれていた。基本設計における市民との協働が定着する一方、建設費の高騰による入札での不調が多発して、(基本)設計段階におけるコスト管理に課題を抱えるようになっていた。そのため、設計と施工と運営も含めて様々な専門家との協働でコストまでを管理する多角的な体制が必要となり、デザインビルドやECI方式も選択肢に含まれるようになった。この時期の小野田教授は小田原市芸術文化センターの二段階デザインビルドや厚木市市庁舎スプリットデザインビルドに係って、実際にデザインビルドを建築計画者としてマネージメントした。

今後の設計者選定について

こうして建築設計の発注の歴史はⅠ期～Ⅳ期を含めて、特命から入札、入札からコンペ、コンペからプロポーザル、プロポーザルからデザインビルド、ECIと、その変遷を辿るが、その変化は決して直線的で単純なものではない。WTOからの市場開放要求により「指名」での発注から「公募」へと変わり、基本設計段階でのワークショップは決定プロセスに市民参加を果たし、運営やコスト面での多角的な検討に専門家が参加するようになって、関わるス

テークホルダーの存在がプロポーザルの形を常に変えてきた。

日本の公共建築における発注業務の未熟さは実に130年前前に登場した入札制度にその出自を持つが、入札の不毛さを建築界はこの50年以上、言い続けてきた。その中であって1985年の建築4団体の「入札によらない建築設計者の選び方」は現在のプロポーザルに至る流れを作るうえではその始まりとも言えるだけの意味を持つ。

その後プロポーザルは何度も改善を重ねる中であって、この日の講師、小野田教授の存在はプレデザイナーとしてプロポーザルで生まれる建築をさらに高い次元へと押し上げる大きな推進力となることを印象付けた。そして建築計画者という職能と共に、施主、設計者の三者の連携と関係者の協働から、未来の建築に向かい新たにプログラムを書き換えていく事が、建築の社会性を高める事に繋がっていく事も確信できた。建築の設計が基本的に入札によらないことは今や常識であるが、しかし現在の第Ⅳ期の多様化した発注のシステムをさらに進化させて次なる第Ⅴ期へと進んでいくためにも、現在の設計事務所の在り方も自ら変わっていく必要があるかもしれない。



鳥居 久保 (JIA 静岡)
企業組合 針谷建築事務所

「第1回 JIA 塾 公共建築設計の発注方式」に参加して

セミナーに参加させていただき、小野田氏の発言の「プロセスを記録に残すことの大切さ(透明性)」「属人的から社会へフィードバックしていくことの大切さ」が印象に残りました。それを受けて8月29日にオンラインで行われた名古屋建築会議(NAC)主催の「第1回東海まちづくりセミナー」に参加しました。【YouTubeで現在公開中です】先ずは山本理顕氏から基調講演「THE CIRCLE」(チューリヒ空港)においてのスイスでのコンペ事情をお聞きしました。コンペ期間は10ヶ月間におよび、床面積255,000㎡・建築費1千数百億円のプロジェクトを山本理顕設計工場

1社の責任で行っています。そのために弁護士、保険会社との協力システムが義務付けられています。スイスでは日本とは意識が違い、公共≠行政であり、公共=市民とのこと。また、様々な場面で設計者以外の建築の専門家がかわっています。その後のディスカッションはJIA会員の建築家・宇野亨氏をコーディネーターにパネリストは山本理顕氏、JIA会員の名大・恒川和久氏、大同大・武藤隆氏、建築家の米澤隆氏と私です。名古屋競馬場跡地の利用についての問題提起から公共建築の設計者選定、敷地選定、プログラムについての問題点が話し合われました。山本理顕さ

んからJIAに期待しているとお言葉をいただきましたが、このような活動は建築士会、事務所協会、建築学会(大学)の建築家・建築士が一人ひとり、専門家として市民に寄り添うことでしか実現しないと思います。東海支部が力を入れている建築教育への広がりも大切です。今後も東海支部で社会での建築の在り方について同時多発的に議論が継続されることを望みます。



吉元 学 (JIA 愛知)
ワークキューブ

JIA 建築ワークショップ@豊橋 「お店をつくろう! ~小さなまちづくりプロジェクト~」



授業風景



会場風景

豊橋での建築ワークショップは、昨年のコロナ禍による中止から2年ぶりの開催。新学期早々、両小学校からの「今年は開催したい」との連絡があり、3年生の絵画、4年生と5年生の工作のレクチャーのほか、夏休みに体育館で行っていたサマースクールにかわり、通常授業時間を使ってその分を補うことになりました。穂の国とよはし芸術劇場 PLAT・アートスペースでの展示は、これまで通り、去る9月3日(金)～5日(日)の展示。残念ながら、表彰式と講評会は延期することになり、アートイベント Sebone の12月初旬の延期開催予定に合わせて実施する計画です。

「お店をつくろう!」については、「建築家+」第2号の『子どもと建築』をテーマとするなかで、特集記事として掲載しました。記事の中で登場する(我が)娘が大学に進学し、リモート授業で豊橋に帰省中、会場設営などを手伝ってくれました。16年前から始めて、今回で15回目の開催となりますが、スタート時の6年生は既に社会人に、1年生も二十歳を越える年齢になっています。いつか、「私、お店をつくろう! やりました! 手伝いさせてくださいっ!」って子が現れないかなあ、と思っておりました。「お店をつくろう!」経験者である娘のお手伝いを密かに悦んでおります。

今年度、嬉しいことのもうひとつは、9月20日に名古屋が開催地となった日本建築学会全国大会2021において、「子ども教育支援建築会議・楽々建築・楽々都市@名古屋」というセッションで地域での実践事例のひとつとして取り上げていただいたことです。『建築教育じゃ学べない!』

子どもとケンチクから考える学びの多様性』のタイトルで、鈴木賢一先生(名古屋市立大)と田口純子先生(名城大)の司会によりオンライン会議形式で行われました。お菓子で建築をつくるワークショップを開催している吉橋久美子さん(Edible Arch.)の『お菓子こうむてん』、「建築家+」でも取材した豊田市・あさひガキ大將養成講座の『さくら村ツリーハウス』の安井聡太郎先生(名城大/子ども建築デザインネットワーク)と共に発表をしました。

参加のきっかけは、田口先生(=ご本人は「先生」NGとされるが、あえて一)が名古屋へ赴任され、専門会員としてJIA愛知の事業委員会に所属していただいたことにより、東海支部が担当しているゴールドエンキューブ賞(GC賞)運営関係者、建築学会教育委員会子ども教育ワーキンググループメンバーへの声掛けにより、『建築と子ども勉強会(仮)』というオンライン(目下のところ)での勉強会に加えていただいたことによります。

主催：日本建築学会 子ども教育支援建築会議
子どもの住まい・まちづくり教育に関わる、教師・教育関係者、公的機関、社会教育機関、NPOあるいは個人の活動を支援することを通じて、住まい・まちづくりに対する社会的認識を育み、建築と都市の環境向上に寄与することを目的としています。本企画は9月7日～10日に名古屋工業大学及びオンラインで開催される2021年度日本建築学会大会に合わせて開催予定です。

子ども教育支援建築会議
楽々建築・楽々都市@名古屋

「建築教育」じゃ学べない!
子どもとケンチクから考える
学びの多様性

2021年9月10日(金)
14:00～17:00 オンライン開催
(Zoom)

第一部 実践発表
1. 「お店をつくろう! 小さなまちづくりプロジェクト」
黒野 有一郎 (一級建築士事務所建築クロノ/JIA 東海支部)
2. 「お菓子こうむてん」 吉橋久美子 (Edible Arch.)
3. 「さくら村ツリーハウス」 安井聡太郎 (子ども建築デザインネットワーク)

申込みされた方に
参加用のURLを
ご案内します。
定員 500名
参加無料

第二部 懇話提供とディスカッション
「JIA 子どもと若者のための建築教育憲章」とは?
国際憲章から考える日本の子どもたちへのメッセージ
報告：黒野 有一郎 (名城大) / 田口純子 (名城大)

申込み
<https://bit.ly/3c4ZGVY>



日本建築学会フライヤー

田口先生のミッションであるUIA「子ども・若者のための建築憲章(仮)2019年版」の日本版翻訳の作業にあたり、原文和訳の読み解きと、それをいかにわかりやすく建築教育の場面で使えるものにするかというテーマに、月イチペースの議論は毎回とても刺激的です。

9月の建築学会でのプレゼンを第1タームとして、年度後半に向け、憲章日本語版の完成と合わせて、「10のメッセージ」をまとめるべく、さらに議論を進めます。まだまだ道のりは長く、山は高い。

コロナ禍での一年休止や、完全なカタチでの実施が叶わない状況のなか、永らく続けてきた地域の子どもたちへの活動が評価され、JIA、建築家の皆さんのお力添えを得て、少しずつ浸透して、広がっていくような感覚を今回は持つことができました。事業委員長に推していただき、2年目となりますが、コロナの影響で事業委員会がこれまで積み上げてきたイベントやワークショップもことごとくできない状況です。まだまだ予断を許しませんが、「コロナ時代(With コロナ)のやり方」を考えていかなければいけません。

黒野 有一郎 (JIA 愛知)
事業委員長



自作自演

私の仕事

04

社会と環境とをつなぐ設計

藤沢市新庁舎は、「人・環境にやさしい市民に親しまれる庁舎」を目指し、藤沢市の特徴である豊かな自然や海、環境への取り組みを表現し、「環境配慮型庁舎」を実現しました。

大型の水平ルーバーとメンテナンスデッキを建物4周に廻し、風や波をイメージさせる水平線を強調したデザインとして、日射遮蔽による熱負荷低減と採光・眺望を両立させています。藤沢市らしいモチーフと環境装置としての双方を兼ね備えたデザインが特徴的な外観となっています。建物中央に中庭を設け自然換気の促進と自然採光を確保するほか、市庁舎屋上やサークルプラザ屋根、屋上目隠し壁には太陽光発電パネルを設置しています。



西側メインアプローチ

運用後の電力使用量をモニタリングした結果、設計段階における試算に対して、契約電力約50%削減、電力使用量も約40%削減とかなりの省エネが実現していることが実証されました。太陽光発電、リチウムイオン蓄電池によるピークカットのほか、CGSによるピークカット、スマートBEMSによる電力制御がかなり有効に活用されていることがわかりました。



待合ロビーに面した4層の吹抜け空間

杉本 憲治 (JIA 愛知)

株式会社 梓設計



JIAに入会して

正会員

大島 幸二 (JIA 愛知)

株式会社 服部都市建築設計事務所

〒464-0075 名古屋市中種区内山1-17-17 HATT BLDG.
TEL 052-731-8121 FAX 052-731-8135

美しい環境創りを社会的使命と心得、機能・デザイン・コスト・環境対応のバランスを配慮しつつ、建築物の質と向上と建築文化の創造・発展に貢献したいと思っておりますので、ご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

正会員

早川 紀朱 (JIA 愛知)

HYKW 一級建築士事務所

〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町29-13
TEL・FAX 052-770-1409



建築家としての資質の向上および業務の進歩改善を図るためにJIAに入会させていただくことにしました。いままで建築プロフェッショナルリズムについての意識が希薄なまま過ごしてきましたが、入会を契機として、JIAの掲げる理念にふさわしい建築家となるように、知識・技術を日々更新していこうと思っています。

JIA愛知 法人協力会員

チヨダウーテ株式会社

中部支店 開発営業部 サプリーター
森 弘毅

〒510-8570 三重県三重郡川越町高松928
TEL 059-365-5211 FAX 059-364-2300

弊社は1948年の創業以来、不燃性建材・せっこうボードをコアビジネスとして様々な製品を製造・販売する建築資材メーカーです。弊社のミッションである「最高の品質」と「独自技術」で、「安全」かつ「快適」な生活空間の実現に貢献してまいります。宜しくお願ひ申し上げます。

JIA愛知 法人協力会員

衛サージュコーポレーション

代表取締役社長
鈴庄 禮子



〒606-8312 京都市左京区吉田上大路町14-6
TEL 075-708-3081 FAX 075-708-3082

生活環境の向上に寄与されているJIAの皆様にお導き頂きながら、水環境の改善の一助となるよう弊社製品の普及を切望しております。貴会の活動を通じて、環境改善の向上に努めてまいります所存でございます。どうぞ御指導賜りますようお願い申し上げます。

JIA三重 法人協力会員

チャンネルオリジナル(株)

名古屋営業所 チームリーダー
片山 貴之



〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵3-15-31 千種第3ビル3階
TEL 052-979-5188 FAX 052-979-5238

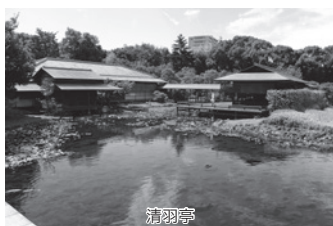
私たちは『建築の外観は社会の財産』という思考から真剣に防火木製外壁「ウイルウォール」を提案し、さらに「物理的にも心理的にも長く愛せる建築創造の実現」に繋がるトータル提案をしています。また、SDGsから北海道や屋久島の国産材プロジェクトにも取り組んでおります！



正門からの導入路



溪流



清羽亭



汐入の庭

元々この地には、1629年から続く堀川沿いの白鳥貯木場があった。木曾御領林の材木を、川と海を経て運び、貯木するための施設である。役割を終えた貯木場は、1979年営林局から名古屋市へ譲渡された。跡地利用計画が種々検討される中で、紆余曲折を経て日本庭園案が採用され、絞られた3案の中から、京都の吉村元男氏(風景造園家)の案に決定。1983年ごみ埋め立て工事完了後、造園工事着工、途中1989年の世界デザイン博覧会を挟んで、1991年4月に開園、一般公開された。

案内パンフレットには『中部地方の地形をモチーフに、築山を「御嶽山」、そこからの流れを「木曾川」、流れの水が注ぎこむ池を「伊勢湾」に見立て、源流から大海までの“水の物語”をテーマにした池泉回遊式日本庭園です。』とある。

庭園は自然景観、歴史景観、現代の景観という3つの景観で構成されているという。

園内を歩くと、水が源流から溪流、渓谷、大小の滝、水郷を経て、海洋へと景色ご

とに流速を変えて流れているが、この水の流が心地よい。ここは生物多様性のピオトープにもなっているようだ。

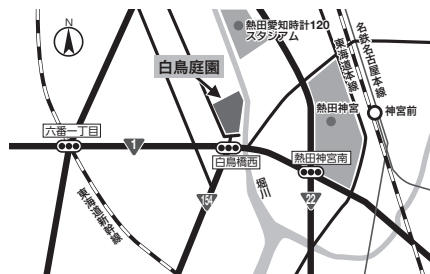
園のほぼ中央には本格的な丸太普請の数寄屋建築「清羽亭」(中村昌生氏設計)があり、これも見所多く、見応えがある。(紙幅の都合で詳細は割愛)

その北東に汐入の庭と汐入亭がある。汐の満ち引きによって移り変わる景色を楽しむ庭で、ここだけは現代的感覚で作られている。

開園から30年経ち、樹木も成長して、現在は成熟した姿を楽しむことができる。

名古屋市の関係者の熱意が、吉村氏の優れた構想を生み、優れた施工者に恵まれて、幸運にも実現したプロジェクトである。このような庭園が名古屋ならではの新種の庭園として誕生し、利活用と手入れにも配慮されていることを知り喜ばしく思う。

(追記) ARCHITECT 本年10月号、畠山成好氏の「白鳥庭園見学会報告」と併せてお読みください。



【概要】
所有者: 名古屋市
所在地: 名古屋市熱田区熱田西町2番5号
敷地面積: 3.7ヘクタール
開園: 1991年4月(平成3年)
庭園設計監理: 吉村元男(風景造園家)
施工: 造園…(株)三五郎園・佐竹三喜雄
 石組…(株)川崎造園・川崎幸次郎、佐竹三喜雄
清羽亭 設計監理: 中村昌生・吉江勝郎
施工: (株)渡邊工務店・安井李工務店
参考資料: ・「白鳥庭園」(2021年5月1日発行)
 ・PROCESS 91「吉村元男:新しい日本庭園の創造」(1990.10.15発行)
 ・「白鳥庭園」案内パンフレット

山上 薫 (JIA 愛知)
 山上建築設計



編集後記

●小野田泰明教授講演会の内容を読んで、公共建築設計の発注方式は、着実にその透明性を増すことが出来ているように感じられた。とはいえ平成28年度の調査では、価格競争方式が都道府県や政令市で60%、市町村では72%と、まだその多くを占めている。また、デザインビルド方式が建築家という独立した職能の一部を損なってしまう危険性を感じる。より発展した、より公平な発注方式により、素晴らしい公共建築が増える事を願っている。(谷川ヒロシ)

●コロナウィルスの新規感染者は、2ヶ月前のピークから嘘の様に減り、オンライン一色であった事業もリアル開催が増えてきました。編集後記にあたり、原稿を精読しました。どの記事からも建築への想いが伝わってきます。浅野先生の連載(第4回)は、三重県内の歴史的街並みを概ね網羅する調査研究と、それにとどまらない景観行政との関わりが素晴らしく「横山天空カフェテラス」に訪れ、景観を満喫したくなりました。「第1回JIA塾 公共建築設計の発注方式」のセミナーに参加しました。プログラム(プレデザイン)については知る機会が少なかったと思います。コンペ、プロポの変遷を紐解いて、プレデザインの重要性に気づく、目から鱗が落ちる講演でした。また、小野田先生の“フランスではコンペがデフォルト(標準)”という言葉が衝

撃でした。プログラムの作成にはセンスが問われます。発注者が未熟な社会では、JIAの支援が必要なようです。(森哲哉)

ARCHITECT
 第398号
 発行日 2021.11.1(毎月1回発行)
 定価 380円(税込み)
 発行責任者 水野豊秋
 編集責任者 川本直義
 編集 東海支部会報委員会
 愛知地域会ブリテン委員会
 株式会社イヅミ内
 ARCHITECT 編集部
 岡崎市明大寺町荒井10番地
 TEL (0564)21-2657 FAX 26-1792
 発行所 (公社)日本建築家協会東海支部
 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル
 TEL (052)263-4636 FAX 251-8495
 E-Mail: shibu@jia-tokai.org
 http://www.jia-tokai.org/



JIA Golden Cubes Awards 2019/2020

JIAゴールデンキューブ賞 2019/2020作品集



2020年1月25日にJIAゴールデンキューブ賞2019/2020の公開審査を建築会館でしました。本来ならば、その年の夏頃には成果物としての作品集を完成させる予定でした。しかし、新型コロナウイルスの感染による委員会活動の休止により、編集作業を開始することができなくなり1年遅れでのお届けとなります。

さて、日本でのゴールデン・キューブ賞は過去3回東海支部のメンバーがコアメンバーとなり運営してきました。したがってこの地域の皆さんには理解者が多いのですが、初めての方にとっては名前だけ聞いてもピンとこないかもしれません。もとはといえばUIAの「建築と子どもワークショッププログラム」※1が主催する「子どもや若者を対象とする建築や都市に関する教育活動」の表彰制度です。

日本でのゴールデン・キューブ賞の取り組みについては、世界の中でもこれだけ充実した運営と、その成果物としての作品集を作成している国は他に見当たらないと聞いています※2。この作品集も学校部門と組織部門の優秀賞の他、計7点の特別賞はもちろんのこと、審査対象となった応募作品17点全てが掲載されています。学校部門の優秀賞「八戸市立種差小景観かるた」は、小学生が地元のフィールドワークを通じて景観かるたを制作するもので、地域文化の継承につながるものとして評価されました。組織部門の優秀賞「移動する建築(松山市)」は、広場に子どもと大人が一緒になって屋台を作り、まちづくりの一役を担っています。特別賞についてもユニークな活動ですのでぜひ手に取っていただきどんな活動が行われているかご覧ください。

また、受賞作品を対象とする審査委員長の古谷誠章氏はじめ、委員の元岡展久、柳川奈奈、大村恵、中川隆の各先生の審査評は極めて示唆的な内容であり、建築と環境、建築と人間活動について改めて考える刺激となります。建築を設計することに加えて、次世代の子どもたちに建築を教育することも、建築家の大事な任務とされています。ご興味のある方は1冊500円でJIA東海支部事務局にてご購入いただき、建築と子どもの活動にも機会があればご参加いただくようお願いいたします。

※1 <https://www.architectureandchildren-uia.com>
 ※2 <http://www.jiagoldencubes.com>

鈴木 賢一
 ゴールデンキューブ賞
 特別委員会委員長

